《空へ》1992 年

熊本の現代作家展 III

# 大森キミ子展

## ―空と雲と風と―

A retrospective of OMORI Kimiko : Scenery with sky,clouds and wind

平成 30 年
2 月 26 日 (月) ― 4 月 7 日 (土)
開館時間／9：30―16：30
休 館 日／日曜・祝日
観 覧 料／無料

肥後の里山ギャラリー
〒860-0017 熊本市中央区練兵町 1 番地
肥後銀行本店 1 階　TEL096-326-7800
http://www.mizutomidori.jp/gallery/

主催／株式会社肥後銀行　公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金

熊本の現代作家展 III

# 大森キミ子展

## —空と雲と風と—

肥後の里山ギャラリーでは、熊本の今日的な文化の断面を、絵画や工芸等の芸術的な側面から紹介する「熊本の現代作家展」を開催しています。

その独自な仕事で業績を残している在熊作家に焦点を当て、作家と熊本の風土が結合して生み出されていく諸作品を通して、現代に華開いている熊本の芸術を知る機会とするものです。この第3回展として、生活周辺の情景や人間の不安、孤独といった感情を、独特な繊細さと柔らかさを併せ持つ心象風景として描き続けている熊本市在住の大森キミ子氏の足跡をたどります。

大森氏は、小学生の時から絵筆を執りはじめています。10歳のとき「一生、絵を描くぞ」と心に決めて以来今日まで63年余、時流におもねることなく、一貫して自己体験に基づく人間の深層心理にある風景を描いています。その基本的な技法である細かい線の集合体による面の構成は、1960年代半ばの画面を引っ掻くことで生まれた線に端を発しているといえますが、画面はその細線の集積が色彩分割的な光の効果を呈し、マネキンの様な没個性のフィギュアたちを囲む心象風景と融合し、感覚的な不思議さを醸し出しながら、見る者をどこか時空を超えた場所に誘うようです。

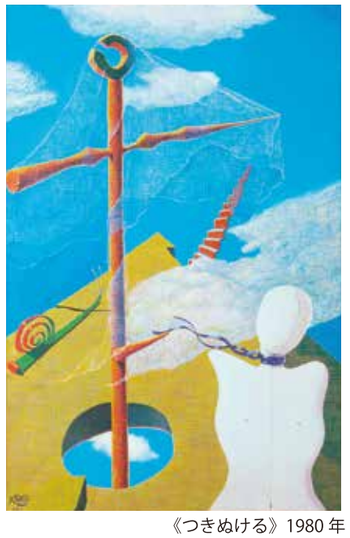
もともと、ゆらゆらと動くものに強い興味を抱いていたという大森氏の作品の多くは、風に揺れる布やカーテン、青空の中を刻々と変化する雲などをモチーフとして、いわゆるシュルレアリスムと呼ばれる画風で、人間の心理の深層に潜む感情をとらえています。そのシュルレアリスム—現実を少し超えた日常空間—におけるイメージは、自分が生きている世界に送る意味不明はある種の信号のようなものであり、見る者がその信号をどう解釈するかというところに大森氏の作品の面白さがあるといえるでしょう。

本展では、大森氏の画業を1960年代半ばの作品から、時代を代表する作品と今回が初公開となる新作までの28点で回顧します。

《雨の遊園地》1965年／熊本県立美術館蔵

《PROCESS 5》1968年／熊本県立美術館蔵

《SPACE》1977年／熊本県立美術館蔵



《つきぬける》1980年

《重たい帽子》1987年

《葬る》1994年

《描く 3》1996年

《時、時の雲》1997年／熊本県立美術館蔵

《赤い空》2000年

## 日頃

私はいつも八景水谷公園を背にして制作している。ある日後ろでキーキーと鳥が鳴く。しばらくすると、鳴き声がすごく近くでキーキー。私は呼ばれている気がして振り返ると、茶色の鳥がテラスの手すりに止まって左右に頭をかしげて、じっとこちらを見てすぐに飛び去ってしまった。私は鳥の友達が出来たと思い、すごく嬉しく、それからしばらくはニコニコして暮らした。半年位たったけれどもその一度きり。

アトリエの東側を二両編成の電車が通る。その中で水色、青、朱、白のペンキが分厚く塗られたレトロな感じの電車が一番好きだ。他の電車は鉄の玉を打ち付けているような音で通るが、この水色の電車は、どっしりと威厳のある音を立て、私のそばでホワンホワンと優しく警笛を鳴らす。ここに引っ越して一年半位になるが、その電車が通るのを九十パーセント位の確率で当てることが出来るようになった。来た！と、絵筆を置き窓から笑顔で見送る。夜はアトリエの窓の電車が映る。北から南へ行く電車は、少し上に登って行くように見え、まるで宮沢賢治の銀河鉄道のようでワクワクする。

さあ、夢ばかり見ていないで絵を描こう。

平成29年3月 記

《りんごのかおり》2008年／熊本県立美術館蔵

《羽を休める栓抜き》2010 年

《風が吹く》2018 年

## 大森キミ子　略年譜

| 年代 | 年齢 | 事項 |
|---|---|---|
| 1944（昭和 19） | 0 | 熊本県玉名郡玉水村（現玉名市）に生まれる。のち熊本市に転居。 |
| 1954（昭和 29） | 10 | 小学生時代３年間、田代順七から絵画の指導を受ける。 |
| 1963（昭和 38） | 19 | 熊本市立高等学校（現必由館高等学校）卒業後、大分県立芸術短期大学美術科に進む。<br>在学中、宇治山哲平の指導を受ける。 |
| 1965（昭和 40） | 21 | 同大学を卒業し帰熊。学校法人加寿美学園・熊本中央女子高等学校（現熊本中央高等学校）で、美術、デザインの教鞭を執る（～ 1968 年３月まで）。 |
| 1967（昭和 42） | 23 | 第１回個展を熊日画廊 ( 熊本市上通町）で開催。<br>第 22 回熊日総合美術展《PROCESS ４》で「熊日社長賞」受賞。 |
| 1968（昭和 43） | 24 | 第１回西日本美術展 ( 西日本新聞社主催）《PROCESS ５》で「２席」受賞。 |
| 1973（昭和 48） | 29 | 第６回西日本美術展《風景》で「奨励賞」受賞。 |
| 1974（昭和 49） | 30 | 第７回西日本美術展《ACCIDENT Ⅰ》《ACCIDENT Ⅱ》で「特別賞 ( 留学賞)」受賞。<br>８月～９月、フランス、スペイン、イタリアに遊学。 |
| 1977（昭和 52） | 33 | 昭和 52 年度熊本県美術家連盟展《SPACE》で「熊本県立美術館賞」受賞。 |
| 1979（昭和 54） | 35 | 絵画教室「こどもアトリエ・こっぺぱん」を開講。 |
| 1981（昭和 56） | 37 | 第 25 回シェル美術展（昭和シェル石油主催）《つきぬける》入選。 |
| 1986（昭和 61） | 42 | 絵画教室の大人の部「アート KAZE」を開講。 |
| 1988（昭和 63） | 44 | 熊本県立美術館主催の「現代のイメージ・心象の世界」展に招待出品。 |
| 1992（平成 ４） | 48 | 21 世紀アート大賞’92（熊本日日新聞社主催）《空へ》入選 ( 以後同展の’93、’94、’95、’96、’97、’99、’00 に入選、入賞を重ねる)。 |
| 1997（平成 ９） | 53 | 21 世紀アート大賞’97《時、時の雲》で「次席」受賞。 |
| 1998（平成 10） | 54 | 「リデルとライトに捧げる　熊本の女流作家６人ロンドン展」に出品。 |
| 2001（平成 13） | 57 | 第 10 回英展（田川美術館主催）に招待出品。 |
| 2002（平成 14） | 58 | ビエンナーレ KUMAMOTO Ⅰ（熊本日日新聞社主催）《追想》入選（以後同展では最終回の５回展まで入選、入賞を重ねる)。 |
| 2008（平成 20） | 64 | ビエンナーレ KUMAMOTO　Ⅳ《りんごのかおり》で「熊日賞」( グランプリ）受賞。 |
| 2009（平成 21） | 65 | 熊本県立美術館主催の「描く―静かなる戦いー」に招待出品。 |
| 2010（平成 22） | 66 | ビエンナーレ KUMAMOTO FINAL《託す》で「奨励賞」受賞。熊本県立美術館分館で個展を開催。 |
| 2016（平成 28） | 72 | くまもと「描く力」2016（熊本日日新聞社主催）《夏が来た》で「潮江宏三賞」受賞。 |

◆ギャラリートーク

３月 10 日（土）、24 日（土）　13：30 ～

当日会場にお集まり下さい。

[ 交通 ]

熊本市電

「辛島町」電停より徒歩１分

路線バス

「熊本交通センター」より徒歩３分